

海辺ゼミ

～インタープリターと研究者の交流の場を作ろう～

河内直子 (Amamo Works)

キーワード：海辺の環境教育、インタープリターと研究者、つながり

1. はじめに

海辺の環境教育フォーラムは、「海辺から環境教育を考えていきたい」有志が集まる緩やかな自主ネットワークです。参加者はエコツアーガイド、水族館職員、ダイビングインストラクター、環境教育系のNPO、大学教員、漁師、アーティストなど様々です。メーリングリストを中心とした情報交換や、コラボレーション事業などを展開しており、2001年から、おおよそ毎年1回のペースで実際に集まってのフォーラムを開催してきました。しかし2020年、コロナ禍によりオンラインでのフォーラム開催が困難になったことから、オンラインでのフォーラムを開催しようと有志が実行委員会を立ち上げ、2020年11月末にオンラインフォーラムを開催しました。

フォーラムの企画をする中で、オンラインで各地の様々な人が気軽に集まれるようになったことを活用し、インタープリターの情報のアップデートと勉強の機会を作れないだろうか、という発案がありました。そこで、実行委員会の中の有志がさらに小グループを作り、「海辺ゼミ」としてセミナーの企画を立ち上げました。本発表では、海辺ゼミのこれまでの実施経緯と、これからの課題そして展望についてお話します。

2. 開催

【第1回海辺ゼミ】

1回目は、「海辺 for Love」と題して、2020年7月にチャリティーイベントとして開催しました。開催にあたり、実行委員メンバーの知人研究者にお声がけて、3名の研究者（鯨類、サンゴ、藻場）にご登壇いただきました。参加者から集めた参加費で得られた収益は、海辺の環境教育フォーラム関係者で 昨年熊豪雨災害で被災したグループに寄付しました。参加者は告知1週間ほどで50名となりました。

【第2回海辺ゼミ】

2回目からは、細く息の長い開催を念頭に、登壇者を1名として、無料開催としました。2回目は2020年11月に、漁業資源解析のエキスパートである研究者の方にお話をいただき、身近なはずなのに一般の人があまり聴くことのない「漁業資源管理」について、最近のトピックから話題提供をいただきました。こちらも告知10日間ほどで40名の参加申込みをいただきました。

【第3回海辺ゼミ】

しばらく間があいてしまいましたが、3回目を2021年7月に開催できる運びとなりました。今回の話題提供は深海の海洋プラスチック問題に取り組んでいらっしゃる研究者の方です。現在、開催2ヶ月前ながらすでに60名以上のお申し込みをいただいています。

セミナーは事前申込み制とし、当日の視聴が難しい方には後日録画

配信を行っています。(3回目については現時点で配信未定。)

3. 課題と今後の展望

これまでのところ、5名の研究者の方にご登壇いただいています。現在のゼミの形は「インタープリターが研究者に情報を教えてもらう」という一方のゼミになっており、研究者側へのメリットがあまりありません。基本的に無料またはチャリティーでの開催で、講師謝金も発生していないため、普及啓発活動に理解のある研究者のご厚意がないとゼミが成立しないという課題があります。そこで将来的には、インタープリターから研究者への提案もできるような、双方向のゼミにしていくことが必要だと考えています。また、今回は「海辺」という環境に対象を絞った開催ですが、自然を相手にすることの多いインタープリターが専門家から情報を仕入れたい、という状況は海辺に限った話ではないと考えます。将来的には、森や湿原や里地など、様々な環境をフィールドにする人と専門家をつなぐ場に、そしてインタープリターと研究者だけではなく、その環境に関わる多くの人々の交流の場となるような「場」を企画できると、それぞれの理解がより深まるのではないかと考えています。

海の自然を伝える人のための

海辺ゼミ：海のいまを学ぼう

チャリティー ONLINE フォーラム「海辺 for LOVE」

海の環境教育や自然体験に関わる人にとって、活動が制限される厳しい状況が続いています。しかしこれを前向きに捉えるならば、今後の活動のために知識をアップデートしたり、大きく変わつつある社会の中での環境教育活動を見直すチャンスなのかもしれません。

海辺の活動に役立つ最新のトピックを、イルカ研究、サンゴ礁研究、藻場研究それぞれの専門家に紹介いただき、その参加費を被災地に届けるチャリティーのオンラインフォーラムを開催します。新しい情報を共有し、それを通じて被災地の活動を支援しませんか？

日時：2020年7月25日(土) 19時～
 場所：オンライン (参加申し込みをいただいた方にzoomの情報をお知らせします)
 参加費：1000円 (収益は海辺の環境教育に携わっている被災者の活動資金に充てられます。)
 参加申し込み：https://umibeforlove.peatix.com/

話題提供：
 「藻場がつくる海のにぎわい」
 島袋寛盛氏 (国立研究開発法人水産研究・教育機構)
 「イルカたちは何を思う？動物の「知性」の特徴を理解し、野生イルカとの付き合いを見直してみる」
 藤原正典氏 (帝京科学大学)
 「サンゴ礁のいま (仮)」
 中野義勝氏 (中嶋科学技術大学院大学)
 主催：海辺の環境教育フォーラム有志
 お問い合わせ：umibe2020@gmail.com

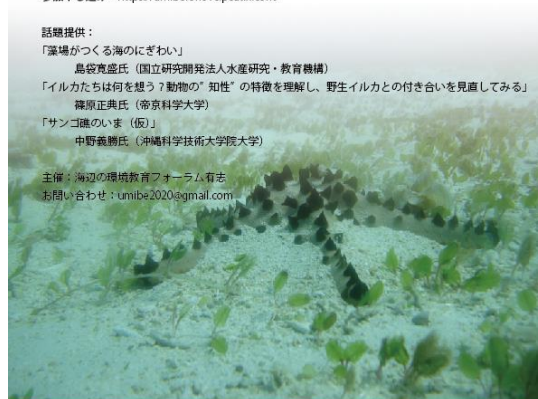


図1. 「海辺 for Love」のフライヤー